

## 日本の8月個人消費はまちまち

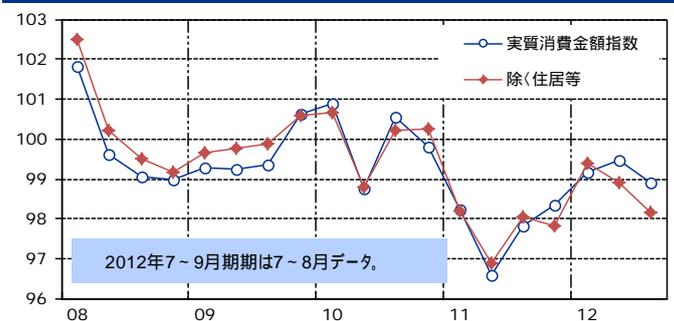
9月末に発表された日本の8月個人消費データは需要側や販売側データが持ち直す一方で、供給側が低調というまちまちの結果になった。

需要側データの家計調査から見ると、8月の実質消費支出は前年比1.8%（7月1.7%）と小幅に伸びを高め、季節調整値では前月比2.2%（7月1.3%）と3ヶ月ぶりの増加へ転じた。気温上昇を受けて、飲料や外食などが伸びたほか、電力消費も7月の落ち込みからは回復した。8月単月でこそ持ち直したが、エコカー購入の一巡を受けた自動車関連支出の減少を受けて、実質消費支出・季節調整値の7～8月平均は4～6月期を0.6%下回っている。自動車関連支出を除けば、大きく落ち込んでいる訳ではないが、力強さは欠いていると判断できる。

販売側データである小売業販売は、8月に前年比1.7%（7月0.8%）と2ヶ月ぶりの増加へ転じ、季節調整値でも前月比1.5%（7月1.5%）と増加した。また、当社が試算している実質ベース・季節調整値で見ても前月比1.8%（7月0.3%）と高い伸びを示している。実質ベース・季節調整値で、内訳を見ると、家計調査同様に気温上昇を受けた飲食料品小売業の好調（8月2.4%）が確認できるほか、衣料品関連も持ち直している（各種商品小売業8月3.7%、衣料品小売業3.3%）。なお、自動車小売業は5.2%（7月5.7%）と2ヶ月連続で大幅に減少した。実質小売業販売・季節調整値の7～8月平均は4～6月期を2.2%上回っており、7～9月期に個人消費が拡大したことを示唆している<sup>1</sup>。但し、小売業販売は対象が財データに限られ、節電で7～8月に使用が減少した電力などのサービス消費は含まれていない点に注意が必要である。

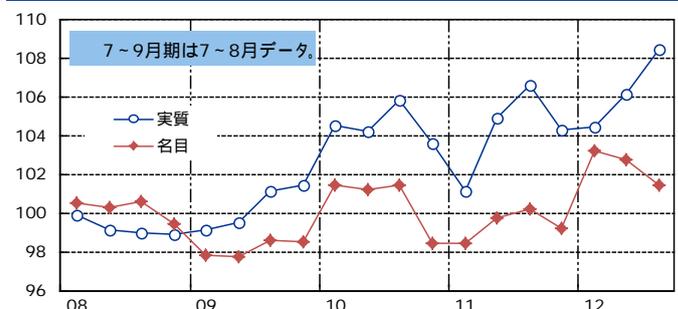
最後に供給側である国内出荷データを見ると、8月の消費財出荷は前月比0.6%（7月0.5%）と4ヶ月連続で減少した。自動車関連を中心に耐久消費財が1.5%（7月0.8%）と低調で、消費財全体を押し下げている。一方、非耐久消費財は6月に2.7%と急増した後、7月0.2%、8月0.0%と高水準を維持しており、底堅い。7～8月平均の消費財出荷は、自動車の押下げにより4～6月期を3.0%下回っており、低調

### 家計調査における消費支出の推移（2010年=100）



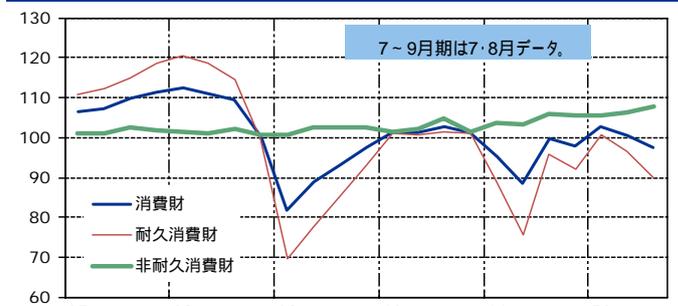
(出所) 総務省

### 小売業販売（2005年=100、四半期）



(出所) 経済産業省等より当社試算

### 消費財出荷の推移（2005年=100）



(出所) 経済産業省

<sup>1</sup> 但し、名目小売業販売の7～8月平均は4～6月期を1.3%下回っている。

である。但し、自動車を除けば、7~8月平均は4~6月期を4.2%も上回っており、不振は自動車に集中している。なお、総国内供給の把握のためには国内出荷から輸出を控除し、輸入を加える必要がある。

冒頭で述べたとおり、8月の個人消費は需要側と販売側が持ち直す一方で、供給側が低調という内容だった。7~8月平均で見ると、消費全体（販売と供給が財に限られるが）は販売側データこそ4~6月期を上回るものの、需要側と供給側は下回っており、7~9月期のGDPベース個人消費は4~6月期に続き低調に推移した可能性が高いと言える。なお、内訳を見ると、いずれにも共通しているのは、自動車関連支出が大幅な押下げに寄与する一方で、他の消費支出には大きな落ち込みは見られない点である。東日本大震災後のpent-up・デマンドの一巡とエコカー購入のピークアウトで個人消費は低調に推移しているが、そうした要因による以上の落ち込みが見られる訳ではない。